食品安全委員会農薬第五専門調査会

第1回会合議事録

1. 日時 令和2年6月8日（月） 14:00～14:49

2. 場所 食品安全委員会中会議室（Web会議システムを利用）

3. 議事

- (1) 委員長挨拶
- (2) 専門委員等紹介
- (3) 専門調査会の運営等について
- (4) 座長の選出、座長代理の指名
- (5) その他

4. 出席者

(専門委員)

乾専門委員、宇田川専門委員、加藤専門委員、久米専門委員、代田専門委員、高橋専門委員、玉井専門委員、西川専門委員、根岸専門委員、本間専門委員、美谷島専門委員

(専門参考人)

川口専門参考人、中島専門参考人、與語専門参考人

(食品安全委員会)

佐藤委員長、川西委員、吉田（緑）委員

(事務局)

小川事務局長、鋤柄事務局次長、近藤評価第一課長、永川課長補佐、横山課長補佐、福地専門官、宮崎係長、塩澤係長、藤井専門職、瀬島専門職、町野専門職

5. 配布資料

資料1-1 食品安全委員会専門調査会等運営規定

資料1-2 テレビ会議又はWeb会議システムを利用した食品安全委員会等への出席について

資料1-3 食品安全委員会における調査審議方法等について

資料1-4 「食品安全委員会における調査審議方法等について」に係る確認書について

- 資料 1－5 農薬の食品健康影響評価に関する事項の調査審議における留意点について
- 資料 2 農薬第五専門調査会専門委員等名簿（令和 2 年 4 月現在）
- 資料 3 食品安全委員会での審議等の状況
- 参考資料 1 食品安全委員会専門調査会等運営規程等の一部改正について
（第777回食品安全委員会資料（令和 2 年 3 月 24 日））
- 参考資料 2 農薬に関する専門調査会での審議状況一覧
- 参考資料 3 令和 2 年度食品安全委員会運営計画

6. 議事内容

○永川課長補佐

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第 1 回農薬第五専門調査会を開催いたします。

先生方には、お忙しい中御出席いただき、ありがとうございます。

事務局の課長補佐を務めます、永川と申します。僭越ながら、座長が選出されるまでの間、私が議事を進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

開催通知等で御連絡しましたように、本日の会議につきましては、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため「テレビ会議又はWeb会議システムを利用した食品安全委員会等への出席について」に基づき、Web会議システムを利用して参加いただく形で行います。

なお、このような事情から、本日は傍聴者を入れずに開催することとし、議事録につきまして、後日、ホームページに掲載することで公開に代えさせていただければと存じます。

Web会議システムを利用した専門調査会の開催につきましては、まだ、経験が浅いところではございますので、事務局に不慣れな部分も多く、議事進行に支障が生じる場合もあるかと存じますが、何とぞ、御理解、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、内閣府において 5 月 1 日付よりクール・ビズを実施しておりますので、御理解、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

続きまして、このたび、4 月 1 日付をもちまして専門委員の選任が行われましたが、本日は選任後の最初の会合に当たりますので、初めに佐藤食品安全委員会委員長より、御挨拶させていただきます。

○佐藤委員長

皆さん、こんにちは。食品安全委員会の佐藤でございます。

こういう状況の下、特別な会議というかWeb会議になりましたけれども、先生方には御参加くださり、どうもありがとうございます。

今、事務局から話がありましたように、選任後、第 1 回ということで、一言御挨拶申し上げます。

このたびは、専門委員への就任を御快諾くださり、ありがとうございます。食品安全委員会の委員長として御礼申し上げます。

既に、安倍内閣総理大臣から令和2年4月1日付で、食品安全委員会専門委員としての任命書がお手元に届いているかと思えます。専門委員の先生方が所属される専門調査会については、委員長が指名することになっており、先生方を農薬第五専門調査会に所属する専門委員として指名させていただきました。

食品安全委員会がリスク評価機関としての独立性と中立性を確保しつつ、科学的な知見に基づき、客観的で公正な立場から食品健康影響評価を行うことは、非常に重要なことであります。

専門委員の先生方におかれましては、レギュラトリーサイエンスをはじめ、それぞれの分野の最新の科学的知見に基づき、リスクアナリシスの考え方にのっとり、総合的な判断で調査審議していただきたいと思っております。

リスクアナリシスの考え方や枠組みについて、食品安全委員会が創設されて以来、啓発を図っているところでございます。

去年は、私なりの理解でリスクアナリシスやレギュラトリーサイエンスの話をさせていただく機会が何回かございましたが、いずれ、そのような機会を作れればと願っております。

専門調査会の審議については、原則公開となっております。この農薬第五専門調査会の審議は、企業の知的財産等が開示され、特定の者に不当な利益もしくは不利益をもたらすおそれがあることから非公開で行うことが多くなるかと思えます。しかし、議事録は公開となっております。

先生方のこれまでの研究から得た貴重な経験を生かした御発言、また、総合的な判断に至る議論を、議事録を通して間接的に聞くことにより、オーディエンスの方々にはリスク評価のプロセスや意義を御理解いただき、情報の共有に資するものと考えてございます。

食品安全委員会が創設されてから17年になりますが、これまで農薬に関する専門調査会では、延べ1,000件を超える、正確には1,082件と聞いてございますが、食品健康影響評価を終了していただいています。

この農薬第五専門調査会は、個別の農薬について調査審議を行うために設置されています。そして、調査審議をいただく農薬については、委員長から指定させていただくことになっております。

食品安全委員会における農薬の評価におきましては、農産物に残留する農薬そのものだけでなく、農薬が農作物で代謝を受けて代謝物を生成する場合や、家畜に飼料として給与された飼料作物中の残留農薬が、家畜で代謝される畜産物中に残留する場合など、様々な形態で人が摂取する可能性を考慮し、総合的に評価していただくとともに、暴露のシナリオとしても、一生涯にわたって毎日摂取した場合に加え、24時間またはそれより短い期間の摂取による影響についても検討していただけてきたところであります。

このように農薬に関する評価には、代謝、毒性に関する幅広い知見が必要であることから、一般毒性学の先生方のみならず、生殖発生毒性、遺伝毒性、動物の代謝、植物の代謝

など幅広い分野から、11名の専門委員と3名の専門参考人に御参画いただいております。皆様の知見が結集されることにより、適切な食品健康影響評価が可能になると考えております。

少し個人的な見方を交えて申し上げますが、リスク評価においては、評価している時点での科学の進歩に合わせた方法や考え方で評価することが重要と考えております。そのためには、リスク評価者が最新の科学で評価していることを示すこと、あるいはそうであろうと努力することも必要であろうと思っております。

科学の更新、アップデートは、それが何であるのか、どうあるべきなのかは議論のあるところではありますが、常々考えていくことで、これからの評価全体の質の向上やアップデートへと広がっていくものでありたいと考えております。

いずれにいたしましても、食品のリスク評価には国の内外を問わず強い関心が寄せられております。専門委員の仕事は、食品の安全を支える重要かつ意義深いものです。専門委員の先生方におかれましては、国民の期待に応えるべく、適切な食品健康影響評価を科学的に、かつ迅速に遂行すべく御尽力いただきますよう、重ねてお願い申し上げます、挨拶いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

ありがとうございました。

次に、本日机上配付しております資料の確認をお願いいたします。

本日の資料は、議事次第のほか、

資料1-1として、食品安全委員会専門調査会等運営規定、

資料1-2として、テレビ会議又はWeb会議システムを利用した食品安全委員会等への出席について、

資料1-3として、食品安全委員会における調査審議方法等について、

資料1-4として、『食品安全委員会における調査審議方法等について』に係る確認書について、

資料1-5として、農薬の食品健康影響評価に関する事項の調査審議における留意点について、

資料2として、農薬第五専門調査会専門委員等名簿、

資料3として、食品安全委員会での審議等の状況、

参考資料1として、食品安全委員会専門調査会等運営規程等の一部改正について、

参考資料2として、農薬に関する専門調査会での審議状況一覧、

参考資料3として、令和2年度食品安全委員会運営計画。

資料及び参考資料は近日中にホームページに掲載されます。

配付資料の不足等はありませんでしょうか。不足等がございましたら、事務局までお申し出いただければと存じます。また、参照資料等については、事前にお送りしました資

料を御覧ください。

なお、本日はWeb会議形式で行いますので、こちらの注意事項を3点お伝えいたします。

1つ目になりますが、発言者の音質向上のため、発言しないときにはマイクをオフにしてください、お願いいたします。

続きまして2つ目でございますけれども、御発言いただく際には、まず、こちらの挙手機能、右上の参加者の部分のお名前の近くにある挙手の部分で挙手をしていただき、次に座長が先生のお名前をお呼びしましたら、マイクをオンにいただき、冒頭にお名前を発言いただいた上で御発言を開始していただき、発言の最後には「以上です」と御発言いただき、マイクをオフとする形で御対応をお願いいたします。

なお、挙手機能がうまく作動しないといった場合には、メッセージに挙手とかお名前を入力、または大きく手を振っていただき、御発言の意思を確認させていただければと思います。

本日、基本的には映像はオンにして、マイクをオフにさせていただいて、御発言があるときにマイクをオンに、そして発言が終わりましたらマイクをオフにという形で進めていただければと考えております。

基本的にはカメラはオンをお願いいたしますが、もし、会議中、通信環境により音声途切れて聞き取りにくい状況となってしまうときに、避難措置的な部分で、カメラ表示を切ることで比較的安定した通信が可能となる場合がございますので、そういった通信環境がよくない場合は、画面下のカメラのボタンをクリックいただくとオフとすることができますので、そういった形で対応ください。

それでも状況が変わらず、議論内容が分からない状態が続くようでしたら、お手数ですが、メッセージに状況を御記載ください。予期せず切断されてしまった場合には、再度入室をお試しいただき、改善されない場合には事務局までお電話いただきますよう、お願いいたします。

こちらがWeb会議における注意事項となります。よろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

次に、議事の2として専門委員等紹介に移らせていただきます。

専門委員につきまして、私の方からお名前を五十音順に紹介させていただきます。お名前をお呼びしましたら、マイクをオンにいただき、御所属、御専門分野を含め、一言いただけましたら幸いです。

発言の終わられました方は、マイクをオフでお願いいたします。

では、御紹介させていただきます。

乾秀之専門委員。

○乾専門委員

神戸大の乾です。

植物代謝を専門にしております。よろしくお願ひします。

○永川課長補佐

続きまして、宇田川潤専門委員。

○宇田川専門委員

滋賀医科大学の宇田川でございます。

私は発生学が専門で、胎生期のストレスが生後のどのような疾患に関係しているかというところを研究いたしております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

続きまして、加藤美紀専門委員。

○加藤専門委員

名城大学の加藤です。

動物代謝が専門です。よろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

続きまして、久米利明専門委員。

○久米専門委員

富山大学の久米と申します。よろしくお願いいたします。

神経毒性が専門となります。よろしくお願いいたします。

以上です。

○永川課長補佐

続きまして、代田眞理子専門委員。

○代田専門委員

東京農工大学の代田眞理子でございます。

生殖発生毒性を専門にしております。どうぞよろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

続きまして、高橋祐次専門委員。

○高橋専門委員

国立医薬品食品衛生研究所毒性部の高橋です。

一般毒性を専門にしています。どうぞよろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

続きまして、玉井郁己専門委員。

○玉井専門委員

金沢大学の玉井と申します。

薬学系で薬物動態学を専門としています。ここでは特に動物体内運命試験について担当します。よろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

続きまして、西川秋佳専門委員。

○西川専門委員

済生会宇都宮病院の西川です。

発がん性を中心に一般毒性を専門としております。よろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

続きまして、根岸友恵専門委員。

○根岸専門委員

根岸友恵です。

岡山大学を退職後、日本薬科大学で非常勤講師をしております。遺伝毒性を担当させていただいております。よろしくお願いいたします。

以上です。

○永川課長補佐

続きまして、本間正充専門委員。

○本間専門委員

国立衛研の本間です。よろしくお願いいたします。

元は遺伝毒性が専門でした。4月から副所長を就任しております。よろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

続きまして、美谷島克宏専門委員。

○美谷島専門委員

東京農業大学の美谷島と申します。

一般毒性を担当させていただいております。よろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

本日は、以上11名の専門委員に御出席いただいております。

また、専門参考人といたしまして、中島裕司専門参考人がおられますが、中島先生にはまた後で一言いただければと存じます。

続きまして、與語靖洋専門参考人。

○與語専門参考人

與語靖洋です。

日本植物調節剤研究協会の技術顧問をやっております。この委員会では植物と環境中の代謝を担当しております。よろしくお願いいたします。

○永川課長補佐

なお、本日、川口博明専門委員は、御都合により遅れての御参加となる予定となっております。

以上、3名の専門参考人に本日は御出席いただく予定です。

また、食品安全委員会からは、先ほど御挨拶いただきました、佐藤委員長、農薬に関する専門調査会の主担当の吉田委員、副担当の川西委員が御出席です。

○永川課長補佐

事務局につきましては、本日、Web会議または委員会室の方から小川事務局長、鋤柄次長、近藤評価第一課長、入江評価調整官、このほか、評価第一課から事務局員が参加しております。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、議事3専門調査会の運営等についてに入りたいと存じます。

課長の近藤の方から、御説明させていただきます。

○近藤評価第一課長

それでは、専門調査会の運営等につきまして、事務局の近藤の方から御説明させていただきます。

まず、資料1-1と参考資料1をお手元に御準備ください。

資料1-1は食品安全委員会専門調査会等運営規程でございます。

本農薬第五専門調査会も、こちらの運営規程に基づきまして運営させていただきます。

第2条を御覧いただきますと、委員会に、別表の左欄に掲げる専門委員会を置きとすることで別表が2枚目でございます。これらの専門調査会の所掌事務はこの表に掲げるとおりということでございまして、農薬に関しましては、農薬の第一から第五の専門調査会がございまして、第二から第五の専門調査会は農薬のうち、委員長が指定するものの食品健康影響評価について調査審議することとされております。

この農薬の専門調査会に関しまして、参考資料1を御覧ください。

昨年度まで農薬専門調査会という一つの専門調査会の下に評価部会が設置されておりましたが、実施されておりましたが、本年3月の食品安全委員会におきましてこの運営規程の一部の改正がなされており、農薬関係の専門調査会につきまして再編が行われております。

参考資料1の1. 趣旨のところを御覧ください。

農薬につきましては、食品安全委員会が行う食品健康影響評価のうち、最多となる約4割を占める農薬について調査審議を行っていただいております。これにつきまして、遅滞なく調査審議を行う必要があること、それから、3パラ目になりますけれども、農薬取締法が改正され、農薬に関する再評価制度が導入されたため、今後、農薬に関する食品健康影響評価の件数が大幅に増加することが見込まれることなどから、こういった状況を踏まえまして、迅速かつ効率的な調査審議をさらに行っていくために、体制整備を行ったものでございます。

それによりまして、農薬専門調査会を廃止しまして、農薬全般に関する事項や再評価に関する事項について調査審議を行う農薬第一専門調査会。それから、先ほど御説明申し上げましたとおり、個別の品目について調査審議を行う農薬の第二から第五の専門調査会を新たに設置することとしたものでございます。

この改正につきましては本年4月1日から施行されておまして、本日、農薬第五専門調査会が開催されているという次第でございます。

それでは、資料1-1にお戻りください。

第2条の第3でございますけれども、専門調査会に座長を置いて、互選により選任するとされております。また、第2条の5でございますけれども、座長があらかじめ指名する者が職務を代理するというので、座長代理を置くこととさせていただいております。

続きまして、第4条でございますが、座長が本会議の議長となつていただくこととなっております。そのほか、各種規定が定められているところでございます。

続きまして、資料1-2を御覧ください。

こちらは冒頭申し上げましたとおり、感染症のまん延防止等の措置のために、本日Web会議システムを用いた会議を実施しているところでございますけれども、本年4月9日の食品安全委員会決定によりまして、このような会議の持ち方ができるということになっております。

続きまして、資料1-3をお手元に御準備ください。

こちらは食品安全委員会における調査審議方法等について定めたものでございます。

1の基本的な考え方に記載しておりますが、食品安全基本法におきまして、食品安全委員会、専門調査会が行う調査審議、食品健康影響評価でございますけれども、その時点において到達されている水準の科学的知見に基づき、客観的かつ中立公正に行わなければならないと定められております。この中立公正に行うために、中立公正な評価の確保の観点から調査審議への参加について定めているものでございます。

2の(1)に委員が調査審議に参加いただけない場合を定めております。具体的には、①から次のページの⑥まででございますけれども、例えば、調査審議の対象となる企業申請品目の申請企業また関連企業から、過去3年間において一定の別表に定めておりますような金額を受けている場合ですとか、あるいはその特定企業の対象品目の申請資料等の作成に協力をした場合などが定められております。

2ページの(2)に、その内容を確認するために確認書を御提出いただくということが定められております。この確認書は任命された日以降、初めて開催される委員会の開催前に御提出いただくこととなっております。本日、改選後、初の会合となっておりますので、資料1-4として先生方から御提出いただきました確認書を資料として今回御提出しております。こちらにつきましては、後ほど、ホームページにも掲載させていただきます。

また、(3)としまして、この確認書を御提出していただいた以降、新たに事情が変わりまして該当することとなった場合には、その旨記載した確認書を御提出いただくこととなっておりますので、お手数ではございますが、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

続きまして、資料1-5をお手元に御準備ください。

こちらは、この農薬の食品健康影響評価における調査審議をしていただく際の留意点をまとめたものでございます。

先ほど、参考資料1の方で農薬専門調査会の廃止と再編について御説明させていただきましたけれども、本年3月末で農薬専門調査会が廃止になりましたことに伴いまして、3

つの運営に係る文書が廃止となっております。

1つ目は農薬専門調査会の運営体制に関する事項、2つ目は農薬専門調査会幹事会及び評価部会の運営等について、3つ目は農薬専門調査会の運営等についてでございます。

この資料1-5は、4月以降の農薬に関する専門調査会におきましても、食品健康影響評価の調査審議が円滑に進みますよう、専門調査会の所掌事務等を踏まえまして廃止となりました3文書で掲げられておりました留意点の継承を含めて、農薬の食品健康影響評価に関する事項の調査審議に係る留意点をまとめたものでございます。廃止となりました3文書からの継承事項を中心に概要を御説明させていただきます。

まず、1の(1)(2)は農薬第一専門調査会が再評価に関する事項について調査審議を行うことから記載したものでございます。

(3)は旧幹事会担当しておりました残留農薬に関する食品影響評価指針の改訂について、その役割を第一専門調査会が継承するというものでございます。

(4)は第二から第五の専門調査会から検討依頼を受けた農薬について、農薬第一専門調査会が調査審議を行うこととされたものでございます。これにつきましては、後ほどまた御説明させていただきます。

続きまして、2ページを御覧いただきまして、2につきましては、農薬第一専門調査会以外、本農薬第五専門調査会を含めました第二から第五の専門調査会の審議について定めております。

(1)でございますけれども、調査審議を行う専門調査会の指定につきましては、食品安全委員会委員長が指定するとされております。この作業を円滑に行うための事前の手続きでございますけれども、こちらは旧農薬専門調査会で効率的な手法を定めていたものを継承するような内容となっております。

(2)に審議内容について記載がございまして、1)評価の実施でございます。1パラ目は評価書のたたき台について各専門調査会の中で文言を最終化することによって、調査審議の透明性を確保するという内容となっております、旧文書の継承内容でございます。

2パラ目でございますけれども、先ほど第一専門調査会の方で、各専門調査会から検討の依頼を受けた検討を行うことができると御説明申しましたが、それについて各専門調査会側から記載したものがこの2パラ目になります。

検討を依頼する場合には、特に検討を必要とする部分があれば、その部分につきまして当該専門調査会における議論の経緯を取りまとめ、評価書案にその旨を明記しまして、その部分の検討について農薬第一専門調査会に依頼するというふうにされております。また、農薬第一専門調査会で得られた結論について報告を受けることとされております。

また、2)の重版剤の取扱いに係る留意点でございますけれども、こちらも廃止となった文書から継承している内容でございます。

(3)企業関係者の参加についてにつきましては、こちらも廃止となった文書から継承する内容となっております。

3におきまして、農薬の食品健康影響評価に関する審議の基本的な考え方につきまして、基本的に廃止となった文書から継承し、1ポツ目ですけれども、指針及び農薬第一専門調査会で決定した考え方を踏まえて評価すること、また、3パラ目でございますけれども、再評価における食品健康影響評価に必要なデータの考え方につきまして、指針に基づく内容を記載しております。

最後に4ページ目になりますけれども、専門調査会の公開、5のその他につきましても廃止となった文書から継承しているものでございます。

本専門調査会における調査審議が円滑に進みますよう、こちらについて御留意いただきつつ、本調査会において御審議いただきますよう、よろしく願いいたします。

事務局からの説明は以上でございます。

今、御説明させていただきました内容につきまして、何か御質問、御意見等がございましたら、よろしく願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、特に御質問等はないようでございますので、これにつきまして御確認いただき、また、御留意いただきながら専門委員をお務めくださいますよう、よろしく願いいたします。

○永川課長補佐

続きまして、次の議題に行く前に、中島先生と川口先生から一言いただいてもよろしいでしょうか。中島先生から、御所属と御専門を含めて一言お願いいたします。

○中島専門参考人

大阪市立大学医学部の解剖学の中島と申します。

専門は脳器官形成と先天異常の発生機構を研究しております。どうぞよろしく願いします。

○永川課長補佐

かしこまりました。ありがとうございます。

続きまして、川口先生、一言お願いいたします。

○川口専門委員

鹿児島大学の川口です。

専門は毒性病理です。南の果てからの参加ですが、会議の皆さんに声が届いていますでしょうか。こちらは今、桜島の灰がすごいことになっております。今後ともよろしく願いいたします。

○永川課長補佐

よろしく願いいたします。

続きまして、議事4座長の選出、座長代理の指名に入らせていただきたいと存じます。

先ほど御説明いたしました、食品安全委員会専門調査会等運営規程第2条第3項により、専門調査会に座長を置き、当該専門調査会に属する専門委員の互選により選任することとされています。

どなたか御推薦いただける方は、いらっしゃいませんか。

玉井先生が早かったと思ったのですが、玉井先生、お願いしてもよろしいでしょうか。

○玉井専門委員

玉井です。

座長につきましては、本間専門委員が適任と考えますので、推薦したいと思います。

以上です。

○永川課長補佐

ありがとうございます。

もう一人手を挙げられていまして、高橋先生、お願いいたします。

○高橋専門委員

高橋です。

私も本間専門委員が適任だと考えますので、御推薦させていただきます。よろしく願いいたします。

以上です。

○永川課長補佐

ありがとうございます。

ただいま、玉井専門委員、高橋専門委員から、本間専門委員を座長にという御推薦がございました。そのほか、いかがでしょうか。

それでは、ほかに御推薦はないようでございます。こちらをもちまして、座長に本間専門委員が互選されました。

それでは、本間座長から、一言御挨拶をお願いいたします。

○本間座長

ただいま指名を受けました本間です。

謹んで座長を引き受けさせていただきたいと思っております。

私はこれまで第四部会の方で座長を務めてきました。遺伝毒性が専門で、ほかのことはあまり詳しくないのですが、他の専門委員の皆さん、事務局の皆さんに支えられて何とか座長を続けられてきました。これからも、皆さんの御協力をよろしくお願いいたします。

以上です。

○永川課長補佐

ありがとうございました。

次に、食品安全委員会専門調査会等運営規程第2条第5項に、座長に事故があるときは、当該専門調査会に属する専門委員のうちから、座長があらかじめ指名する者が、その職務を代理するとございますので、座長代理の指名をお願いしたく存じます。

これ以降の議事の進行は、本間座長をお願いいたします。

○本間座長

それでは、議事の進行を引き継がさせていただきます。

ただいま、事務局から説明があった座長代理の指名についてですが、私からは代田専門委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○代田座長代理

お引き受けさせていただきます。

○本間座長

お引き受けくださり、ありがとうございます。

それでは、代田座長代理から、一言御挨拶をお願いいただけますでしょうか。

○代田座長代理

委員会の体制や開催方法なども新しくなりまして、不慣れな点が多々あるかと思えますけれども、座長を補佐してやっていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上です。

○本間座長

ありがとうございました。

それでは、その他の議事に移ります。

まず、食品安全委員会での審議等の状況についてです。

事務局より、説明をお願いします。

○永川課長補佐

食品安全委員会での審議等の状況について、資料3になりますけれども、リスク管理機関への通知でございますが、4月21日に1剤について通知を行っている状況でございます。

以上です。

○本間座長

以上、事務局から説明がありました。何か御意見、御質問はありますか。よろしいですか。

続いて、事務局より説明をお願いします。

○近藤評価第一課長

事務局の近藤でございます。

それでは、今年度最初の専門調査会でございますので、今年度の食品安全委員会の運営計画について、簡単に御説明させていただきます。

参考資料の3をお手元に御準備ください。

表紙をめくっていただきまして、1ページ目に審議の経緯がございます。

本年1月の企画等専門調査会で審議した後、食品安全委員会に報告し、国民からの意見募集を経まして、本年3月31日の食品安全委員会で決定されたものでございます。

2ページ、第1としまして令和2年度における委員会の運営の重点事項を記載しております。(2)に①から④までの重点事項がございますので、以降、農薬の関係を中心に御説明させていただきます。

重点事項の①としまして、食品健康影響評価の着実な実施がございます。この中で、a. としまして、農薬再評価制度に向けた取組の推進を記載しております。先ほどの農薬専門調査会の再編の際にも申し上げましたけれども、農薬取締法の改正によって再評価制度が導入されたということで、これに向けましてリスク管理機関と連携しつつ、準備作業を進めることとしております。

また、②としましては、リスクコミュニケーションの戦略的な実施。

③としまして、調査・研究事業の活用。

④としまして、海外への情報発信、国際会議等への参画及び関係機関との連携強化といったことを重点事項として挙げております。

3 ページ目に参りまして、第2の委員会の運営全般におきまして、(3)として食品健康影響評価に関する専門調査会の開催を挙げております。本調査会におきましても、食品健康影響評価に関します実施をよろしくお願いいたします。

4 ページ目に参りまして、第3の食品健康影響評価の実施という中に、1としましてリスク管理機関から食品健康影響評価を要請された案件の着実な実施というものがございます。(1)としまして、リスク管理機関から要請された案件につきまして、早期に食品健康影響評価が終了するよう、計画的・効率的な調査審議を行うこととしております。

また、(2)といたしまして、標準処理期間、追加資料の提出に要する期間を除きまして1年間とされておりますけれども、その標準処理期間内に評価結果を通知できるように計画的に調査審議を行うこととしております。

(3)としまして、いわゆるポジティブリスト対象品目の食品健康影響評価につきましても、計画的な調査審議を行うこととしております。

2としまして、評価ガイドライン等の策定について挙げております。

2つ目のパラグラフについて、農薬に関する記載もございます。再評価制度の開始も見据えて、指針の改訂に向けて精力的に検討を進めることとしております。

5 ページ目以降、第4、第5、第6、第7と重点事項に関する記載がございますので、お時間のあるときに御覧いただければと存じます。

簡単でございますが、以上でございます。

○本間座長

以上、事務局から説明がありましたが、何か御意見、質問はございますでしょうか。よろしいですか。

事務局から他に連絡事項等はありませんか。

○永川課長補佐

ございません。

○本間座長

よろしいですか。

それでは、以上をもちまして、第1回農薬第五専門調査会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

以上